

TERART（テラート）

趣旨

TERART はお寺が主催するアート展です。

なぜアートに着目するのか、それはアートが次の社会の段階を導き、生き抜いていくための一つの方向を指し示しているからです。

では、アートとは何でしょうか。

Art には芸術のほかに技という意味があります。技とは、その表現が「であい」の場となっているということです。

自分との出遇い、他者との出遇い、世界との出遇い、「であい」には様々なものとの関係性が見てとれます。Art とはその表現を通して知らなかったもの、今まで見過ごしてきたものと常に出会い直していくというものなのです。それは同時に自己の姿を常に知らされるということでもあります。

今の社会は、資本主義がベースです。利益・効率・スピードを重視する資本によって価値が位置づけられます。そして、インターネットの発展によって、有名かそうでないかも資本と同等の判断軸になっています。有名であるか、お金が集まっているか、そのような単純な判断軸で社会の成熟度、発展度を推し量ることは時代にそぐいません。

TERART は全く逆の考え方から成り立ちます。すなわち不利益・不効率・不スピードです。それは現代社会の判断基準から見れば、そうとしか捉えられないという意味合いです。

お寺や地域の活性化を目指すならば、昭和の高度経済成長的な社会の発展系ではなく、本当に私たちが求めている充実感というものを社会の中心として考えなければなりません。

（そこには当然、私たちが是としている社会慣習や社会構造を創造的に考え直すことも含まれるでしょう）

そして、お寺はまさしく「であい」の場です。曾我先生が「回向表現」とおっしゃったように、阿弥陀仏から表現していただいた「南無阿弥陀仏」の名号のもとに私たちは未知のもの、既知のものと出遇っていけるのではないのでしょうか。